香川大学教育実践総合研究（*Bull. Educ. Res. Teach. Develop. Kagawa Univ.*），37：93－100，2018

子どもの表現を導く支援ができる保育者養成に関する実践的研究（３）

岡田　知也・桐山　由香*・谷口　愛**
（音楽教育）　（大阪青山大学）　（ウィーン大学大学院）

760－8522　高松市幸町１－１　香川大学教育学部
*562－0005　大阪府箕面市新稲２－11－１　大阪青山大学
**Universitätsring 1，1010 Wien, Austria Universität Wien

A Practical Study about Education Program of Childcare Worker, Can Bring Out The Children's Expression（３）

Tomoya Okada, Yuka Kiriyama* and Ai Taniguchi**

Faculty of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522
**Department of Child Education, Faculty of Health Science, Osaka Aoyama University 2-11-1 Niina, Minoh, Osaka 562-0005*
***Philologisch-Kulturwissenschaftliche Fakultät Institut für Musikwissenschaft, Universität Wien, Universitätsring 1, 1010 Wien, Austria*

要　旨　本研究は，１）子どもの表現活動を導くことができる保育者を養成するために，音楽に関する授業科目において育てるべき資質・能力について考察し，２）そのことを保証する授業内容を再構築し，３）授業内容が適正であるかどうかについて検証を試みることである。本稿では，「保育内容の指導法（幼児音楽）」の授業内容の一つである「模擬保育」の活動について，検証及び考察を行うこととする。

キーワード　保育内容の指導法　音楽　模擬保育

Ⅰ．はじめに

文部科学省は幼稚園教育要領等を含む次期学習指導要領について，2017（平成29）年３月に告示を行った。そこでは，幼稚園教育において育みたい資質・能力を「知識及び技能の基礎」「思考力，判断力，表現力等の基礎」「学びに向かう力，人間性等」の３つの観点から明示している。そして，ここで明示された資質・能力は，個別に取り出して身に付けさせるものではなく，遊びを通しての総合的な指導を行う中で一体的に育むことが重要であるとしている。

また，教師が指導を行う際に考慮するものとして「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を10項目に分けて明示している。音楽に関わる項目としては「(10) 豊かな感性と表現」において「心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で，様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き，感じたことや考えたことを自分で表現したり，友達同士で表現する過程を楽しんだりし，表現する喜びを味わい，意欲をもつようになる」と育ってほしい姿が示されている。これら10項目についても，個別に取り出して指導されるものではなく，幼児の自発的な活動としての遊びを通して，これらの姿が育っていくことに留意が必要であるとしている。

ところで，上記の大きな変更点と比較して，幼稚園教育において育みたい資質・能力を幼児

の生活する姿から捉えたねらい及びねらいを達成するために指導する事項である内容については，記述内容に大きな変更は見られないように思われる。内容の領域についても現行と同様に５領域である。

ただ，音楽に関わる内容として大きな追加事項が一つあった。それは「環境」領域の「３．内容の取扱い」として，「文化や伝統に親しむ際には，正月や節句など我が国の伝統的な行事，国歌，唱歌，わらべうたや我が国の伝統的な遊びに親しんだり，異なる文化に触れる活動に親しんだりすることを通じて，社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどが養われるようにすること」に留意する必要があると示されたことである。幼稚園において国歌に親しむ活動を行わなければならないのである。具体的な活動内容について，今後研究を深めていかなければならないと考えられる。

音楽に深く関わる「表現」領域においては，ねらい及び内容に大きな変更は見られないように思われるが，内容の取り扱いにおいて「風の音や雨の音，身近にある草や花の形や色など自然の中にある音，形，色などに気付くようにすること」や「様々な素材や表現の仕方に親しんだり」といった文言が加わっており，このことについても同様に研究を深めていかなければならない。さらに，今回同時に告示された保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領については，別の機会に検討を加えたい。

筆者らは，教員や保育者をめざす学生たちが，これまで以上に高い資質・能力と最新の専門的知識や指導技術等を身に付けていくことができるよう，授業担当教員としてどのような質的側面を向上させていくのかを学生自身が把握できるよう可視化し，免許法で定められた授業科目において養成する資質・能力を，明確にすることが重要であると考え，研究を継続し，成果を発表してきた（例えば，岡田･桐山（2016）及び岡田・桐山（2017）等）。

本研究の目的は，１）子どもの表現活動を導くことができる保育者を養成するために，音楽に関する授業科目において育てるべき資質・能力について考察し，２）そのことを保証する授業内容を再構築し，３）授業内容が適正であるかどうかについて検証を試みることである。筆者らはこれまで，岡田･桐山（2015）及び岡田･桐山（2016）において保育者養成における音楽に関する授業科目である「幼児音楽」について，また岡田・桐山（2017）では指導法科目である「保育内容の指導法（幼児音楽）」について，その授業内容を検討した後，再構築を試み実践を行い検証した。そして今回は，指導法科目である「保育内容の指導法（幼児音楽）」の授業内容の一つである「模擬保育」の活動について検証を行った。

ここまでの研究成果に基づき再構築した授業内容は，幼稚園教諭免許状を取得するための授業科目として適正なものであったのだろうか，また学生たちの音楽に関する資質・能力を高めることができたのであろうか。今回は長島（2009b）の「授業力評価スタンダード（音楽科）」に基づいた自己評価及びアンケート調査等により，とりわけ以下の２点について明らかにしていきたいと考えている。

１．「保育内容の指導法（幼児音楽）」の授業内容において育てることができる，音楽に関する資質・能力はどのようなものか。
２．「保育内容の指導法（幼児音楽）」の授業内容は，幼稚園教諭免許状・保育士資格を取得するための授業科目として適正なものであるのか。

Ⅱ．これまでの研究の経緯について

さて，新しく告示された幼稚園教育要領等に示された内容を実践するためにも，教員や保育者をめざす学生たちがこれまで以上に教員としての高い資質・能力や最新の専門的知識や指導技術等を身に付けていくことができるよう，授業担当教員としてどのような質的側面を向上させていくのかを学生自身が把握できるよう可視

化し，免許法で定められた各授業科目において養成する資質・能力を，明確にすることが重要であると考え，研究を継続し，成果を発表してきた。

筆者らはこれまで，岡田・桐山（2015）及び岡田・桐山（2016）において保育者養成における音楽に関する専門授業科目である「幼児音楽」について，その授業内容を検討した後，再構築を試み実践を行い検証した。さらに岡田・桐山（2017）においては，指導法科目である「保育内容の指導法（幼児音楽）」の授業内容の一つである「絵かきうた」の活動及び授業内容全般について長島（2009b）の「授業力評価スタンダード（音楽科）」に基づいた自己評価を手がかりに検証を行った。

本稿においては，「保育内容の指導法（幼児音楽）」の授業内容の一つである「模擬保育」の活動について，学生を対象としたアンケート調査の自由記述を手がかりとした検証及び考察を行うこととする。

Ⅲ.「保育内容の指導法（幼児音楽）」の授業内容について

（1）「保育内容の指導法（幼児音楽）」における「模擬保育」

「保育内容の指導法（幼児音楽）」はいわゆる教育法科目であり，幼稚園教諭免許状を取得するためには必修である。半期２単位の科目で，学生は主に３年次後期に受講することとなっている。2015年度受講者は幼児教育コースの学生10名と，幼児教育コース以外の幼稚園教諭免許状の取得を目指す学生13名，計23名であった。2016年度は幼児教育コースの学生11名と，幼児教育コース以外の学生９名，計20名が受講した。

授業内容は，幼児の音楽に関わる表現活動や，保育施設における音楽を活用した行事等を実践するために必要な資質・能力を身に付けるための講義や演習を行っている。本授業を受講する時点では，幼児教育コースの学生は保育実習，施設実習及び附属幼稚園における教育実習を終えているが，他コースの学生は保育の活動が未経験の者も多い。そのこともあり，授業内容については保育の実践において活用できるものを重視し，体験活動的な内容を精選して半期15コマの授業内容を以下の通り構築した。

シラバスに明記している内容は次の通りである。

〇授業の概要

乳幼児にとって音楽とは何なのかを探り，遊びの中で音や動きを感じ喜び合あえる子どもの育ちのための支援や環境構成について実際に体験しつつ考えていく。

〇授業の目的

乳幼児の音楽的成長を促すような音楽遊びの方法や環境構成のアイデアとセンス，遊びが展開していく支援の方法を実際に活動しながら学び，乳幼児の遊びを見守りながら，臨機応変に支援し対応できる力量を修得する。

〇到達目標

1．幼児と共に音楽を全身で楽しむ感性とアイデアとヒントと、保育実践に溶け込んだ理論的な観点を習得することができる。
2．手振りや身ぶりのあそびとことばあそびと音あそびを融合させた音楽あそびを実際に創作し、グループで体験することによって、幼児の音楽あそびに独特な展開性を実際に体得することができる。
3．幼児の音楽あそびを多様に豊かに展開させる力量と、音楽あそびの場の創造に対する、保育者の全身体的感性を養うことができる。

〇授業計画

1．ガイダンス
2．子どもの音楽表現について１
　幼児にとって音楽とは -幼児の音楽活動について概論
3．子どもの音楽表現について２
　オリジナル絵かき歌をつくって発表しよう
4．振りを付けて歌おう −手話の歌を手がかりに１
　「四季の歌」を，手話を付けて歌ってみよう
5．振りを付けて歌おう −手話の歌を手がかり

に２

振り付けを工夫して歌おう

６．楽器を使って遊ぼう１

手づくり楽器で遊ぼう

７．楽器を使って遊ぼう２

楽器の活用を考えてみよう

８．楽器を使って遊ぼう３

楽器をつかって動きましょう

９．ハンドベルを使って遊ぼう１

ハンドベルを使ってアレンジを工夫して演奏しよう

10．ハンドベルを使って遊ぼう２

ハンドベルを使ってアレンジを工夫して演奏しよう

11．からだを楽器にしてみよう１

身体を使っていろんな音をつくろう

12．からだを楽器にしてみよう

つくった音を発表しよう

13．音楽を生かして，楽しいイベントをつくろう１

保育活動案を作成しましょう

14．音楽を生かして，楽しいイベントをつくろう２

各グループによる取り組み

15．音楽を生かして，楽しいイベントをつくろう３

各グループによる発表，学生による授業評価

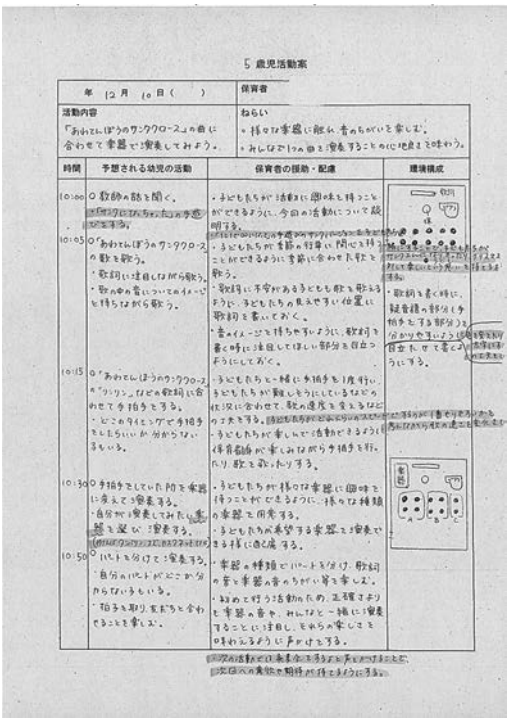
本稿において検証，考察を行う「模擬保育」の活動は，第13回から第15回までの３時間である。

具体的には，冬休み中の課題として，各自が音楽を生かした保育活動案を作成し，第13回ではそれらについて受講者数人で構成されているグループにおいて意見交流を行う。その後，ベースにする保育活動案をグループごとに一つ選び，さらに協力しながらそれをブラッシュアップさせていく。（学生が作成した保育活動案例１～３）参照，なお赤字（注：画像がモノクロでわかりづらいためマーカーで強調している）の書き込みは，意見交流によりブラッシュアップさせていった軌跡である。

第14回は，保育者役を選び具体的な内容についてシミュレーションを行う。活動に必要なものがあれば準備する。

第15回は，各グループによる実践を行い，それぞれについて意見交流を行いながら学びを深めていく。

（学生が作成した保育活動案例１）



５ 歳児活動案

年 12月 10日（ ）	保育者
活動内容 「あわてんぼうのワンクロース」の曲に合わせて楽器で演奏してみよう。	ねらい ・様々な楽器に触れ，音のちがいを楽しむ。 ・みんなで1つの曲を演奏することの心地よさを味わう。

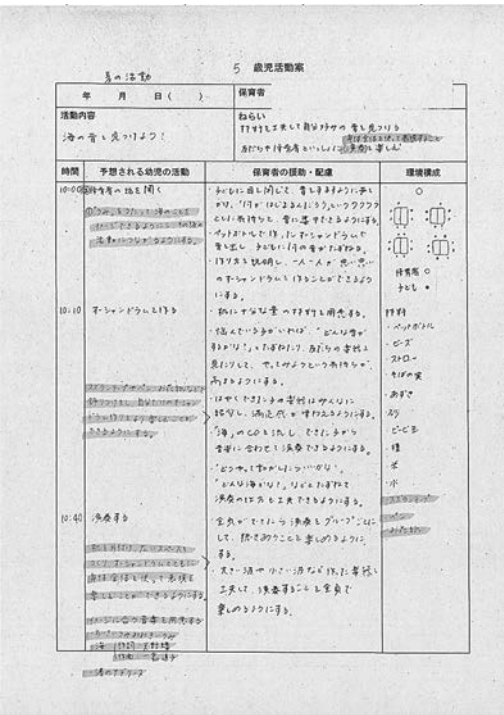
時間	予想される幼児の活動	保育者の援助・配慮	環境構成
10:00	○歌詞の話を聞く。 ・「ワンクロ」にひたりながら歌を聴く。	・子どもたちが活動に興味を持つことができるように，今回の活動について説明する。	
10:05	○「あわてんぼうのワンクロース」の歌を歌う。 ・歌詞に注目しながら歌う。 ・歌の中の音についてのイメージを持ちながら歌う。	・子どもたちが音節の特徴に関心を持つことができるように言葉に合わせた歌を歌う。 ・歌詞に不安がある子どもも歌えるように，子どもたちの見えやすい位置に歌詞を書いておく。 ・音のイメージを持ちやすいように，歌詞を書く時に注目してほしい部分を目立つようにしておく。	・歌詞を書く時に，疑音語の部分（手拍子をする部分）を分かりやすいように目立たせて書くこと。
10:15	○「あわてんぼうのワンクロース」や「ツリッシ」などの歌詞に合わせて手拍子をする。 ・どこが1とか2とかで手拍子をしたらいいか分からない子もいる。	・子どもたちと一緒に手拍子を1度行い，子どもたちが難しそうにしているなどの状況に合わせて，歌の速度を変えるなどの工夫をする。 ・子どもたちが楽しんで活動できるように保育者自身が楽しみながら手拍子を行ったり歌を歌ったりする。	
10:30	○手拍子をしていた物を楽器に変えて演奏する。 ・自分が演奏してみたい楽器を選び，演奏する。 ・ハンドクラップ，ボディパーカッションを行う。	・子どもたちが様々な楽器に興味を持つことができるように，様々な種類の楽器を用意する。 ・子どもたちが希望する楽器で演奏できる様に色づけする。	
10:50	○ハートを分けて演奏する。 ・自分のパートがどこか分からない子もいる。 ・拍子を取り，友だちと合わせることを楽しむ。	・楽器の種類でパートを分け，歌詞の音や楽器の音のちがいを楽しむ。 ・初めて行う活動のため，五感でさまざまな楽器の音や，みんなと一緒に演奏することに注目し，そのような楽しさを味わえるように声かけをする。	

[illegible]

参照文献

[illegible]

（学生が作成した保育活動案例２）


5 歳児活動案

海の活動

年　月　日（　）	保育者
活動内容 海の音を見つけよう！	ねらい ・すすきを工夫して自分オリジナルの音を見つける ・友だちや保育者といっしょに楽しみ、楽しむ

時間	予想される幼児の活動	保育者の援助・配慮	環境構成
10:00	保育者の話を聞く	・子どもに近い目線で、言いやすいように、手いっぱい、「何が」ではなく、「どう」というクエスチョンを用いて、言葉に出すことをうながす。 ・のびのびした作業ができるように、テーブルを用意する。 ・作り方を説明し、一人一人が思い思いのTシャツを作ることができるようにする。	○ 保育者 ○ 子ども ・
10:10	Tシャツを作る	・初めてなら音のすすきを用意する。 ・慣れてきたら、「どんな音がすきかな？」などたずねたり、友だちの音を聞いたりして、やってみたいという気持ちが、あがるようにする。 ・はやくできた子の音作りはサンゴに絵をかし、満足感や達成感をうながす。 ・「海」のことを話し、できたものから音に合わせて、演奏できるようにする。 ・「どうやって音がでるのかな？」、「どんな海がいい？」などたずねて、演奏の仕方を工夫できるようにする。	材料 ・ペットボトル ・ビーズ ・ストロー ・セロテープ ・あずき ・ラップ ・ビニール ・種 ・米 ・水
10:40	演奏する	・全員ができたら、演奏し、グループごとにして、聴きあうことを楽しめるようにする。 ・大きい波や小さい波など、作った音楽に工夫して、演奏することを全員で楽しめるようにする。	

（学生が作成した保育活動案例３）

〈ちょーりょく〉

4 歳児活動案

29年10月5日（木）	保育者
活動内容 うちわであおいで身体を動かそう。	ねらい ・どんぐりになりきることで、楽しんで身体を動かしたりすることを楽しむ。 ・リズムの音に合わせて、イメージを膨らませ、身体を使って表現する。

時間	予想される幼児の活動	保育者の援助・配慮	環境構成
10:00	・「どんぐりのポーズ」をする。	・保育者が一緒に歌うことで、楽しい雰囲気でうたが覚えられるようにする。 ・活動がしやすいように、歌うことで、活動への期待を高められるようにする。	子ども
10:10	・めがねの作り方を聞く。	・実際に作りながら説明することにより、作り方が理解できるようにする。 ・画用紙とわゴムは保育者があらかじめ用意しておく。 ・画用紙やカラーセロハンは色を用意しておき、自分のオリジナルのめがねが作れるようにする。	
10:15	・めがねを作る。	・楽しく自分なりのめがねが作れるように、子どもたちのイメージに共感する。 ・早く作れた子は友だちの手伝いをしてもらうように、ペンやクレヨンを用意しておく。	〈材料〉 ・画用紙 ・わゴム ・カラーセロハン ・ペン ・クレヨン ・セロハンテープ
10:35	・作っためがねをかけて「どんぐりのポーズ」をする。	・自分でつくっためがねをかけて、友だちとふれあうことで、わくわく感をあじわうようにする。	
10:40	・「どんぐりのポーズ」の方に合わせて身体を動かす。	・子どもたちが思いきり身体を動かせるようにスペースをしっかり確保しておく。 ・初めは保育者がいっしょに動きを用意しておくことで、動きやすいようにする。 ・どうちょうのポーズやスピードを変えることによって、さまざまな動きができるようにする。 ・おもしろい動きをしている子がいたら、他の子にも紹介することにより、みんなで楽しむようにする。	・いすやテーブルは用意しておく。
10:50	・どうちょうの音に合わせて、他の楽器を鳴らし、それに合わせて身体を動かす。	・他の楽器を鳴らすことによって、ちがう動きでも楽しめるようにする。	

（２）「保育内容の指導法（幼児音楽）」において育成する音楽に関する資質・能力

本研究における音楽に関する資質・能力の拠り所としている「授業力評価スタンダード（音楽科）」について説明を加えると，長島（2009a）は，授業実践力は授業構想力（事前に子どもたちの学習の可能性を想定し，適切な音楽授業を準備する能力群），授業展開力（授業構想力をふまえながら，授業実践の場で臨機に発揮される能力群），授業評価力（自分の授業や他者の授業の成果と課題を明らかにする能力群）の３つの能力群から把握されると述べ，さらに授業構想力に10項目，授業展開力に21項目，授業評価力に２項目，合計33項目の下位能力群で把握することができると述べ，授業力評価スタンダード（音楽科）を開発している（2009b）。本スタンダードは，そもそも小学校や中学校の音楽を専門とする教員が獲得すべき資質・能力を想定して開発されたものであるが，金指(2009)が同スタンダードを引用するにあたり，“「音楽教師」を「保育者」に置き換えて考えた”と述べているのと同様に（さらに本研究では，学習者を幼児，学習を保育，授業を保育活動と読み替えている），筆者らもここに示された資質・能力を育成することが保育者養成にとって重要であると考え，これを拠りどころとして授業内容の再構築を試みることとしたのである。

このカテゴライズに基づくと，本授業科目全体は，A.授業構想力の「学習者の把握１_学習者の実態把握」「同２_学習への構え・ルールづくり」「目標の分類と設定」「授業構成　１_教育内容の構成」「同　２_教材の選択・構成」「同３_授業過程の組織」「同　４_学習法・学習形態の選択・構成」「単元計画（授業計画）１_単元計画の作成」「同２_学習指導案の作成」「同３_学習評価計画の作成」，B.授業展開力の「パフォーマンス　２_言語的パフォーマンス」「同　３_子どもたちへの対応」「教具の活用１_板書」「同２_教育機器・資料」，C.授業評価力の「自分の授業の構想と実践に対する評価」「他者の授業と実践に対する評価」に関わるものであると筆者らは考えている。つまり，授業構想力のカテ

ゴリーにおいては10項目全て，授業展開力のカテゴリーにおいては21項目中15項目，授業評価力のカテゴリーにおいては２項目全てと，授業構想力及び授業評価力に関わる資質・能力を中心として33項目中27項目の資質・能力の育成に寄与できるのではないかと考えている。

そして，本稿の検証対象としている「模擬保育」の活動は，これら全ての資質・能力の育成に関わる，総括的な活動と位置づけている。

Ⅳ.「保育内容の指導法（幼児音楽）」の授業内容の検証について

（１）授業力スタンダード（音楽科）による授業内容の検証

検証結果については岡田・桐山（2017）において発表しているが，本授業において育成したい資質・能力に関わる27項目のうち23項目において，全ての学生が段階１以上に到達できたと自己評価している。あくまでも自己評価であるため過信は禁物であるが，概ね満足できる結果となっている。特に「学習者の把握」に関わる３項目，「単元計画」に関わる３項目，「言語的パフォーマンス」に関わる６項目，「教具の活用」に関わる４項目の能力については，全員が少なくとも段階１に到達できたと回答している。このことから，子どもの実態に寄り添った保育活動案を作成し実践するために必要な最低限の資質・能力を育成するという「保育内容の指導法」科目としての最も重要な役割を，特に「模擬保育」を授業内容に加えたことにより果たすことができたと筆者は考えている。

また「到達できず」と自己評価した学生がいた４項目を見てみると，A-３-３）「授業構成，授業過程の組織」，B-１-３）⑤「子どもたちへの対応，ハプニングへの対応」，C-１「自分の授業の構想と実践に対する評価」，C-２「他者の授業の構想と実践に対する評価」で各１名であった。このことは今後の課題としたい。

（２）アンケート調査の自由記述による検証及び考察

2015年度，2016年度ともに，全15回の授業終了時に受講者を対象としたアンケート調査を実施した。

アンケートの設問は，「『模擬保育』」の授業内容について，質問や感想がありましたら書いてください」，「『保育内容の指導法(幼児音楽)』について，質問や感想がありましたら書いてください」である。

その自由記述の内容は多岐にわたるものであったが，「模擬保育」の授業内容については，43名からのべ92個の記述が得られた。92個の記述についてカテゴリー分けを試み，A.保育活動立案，B.保育活動実践，C.模擬保育全般の３つのカテゴリーを設定し，各々の下位項目として自分自身のこと，自分以外ことの２つを設定した。さらに，それぞれをプラス記述とマイナス記述に分類したところ，各項目に該当する記述数は次の通りとなった。

A.保育活動立案（26記述）
- A1＋　自分自身についてプラス記述　23
- A1－　自分自身についてマイナス記述　2
- A2＋　自分以外についてプラス記述　0
- A2－　自分以外についてマイナス記述　1

B.保育活動実践（23記述）
- B1＋　自分自身についてプラス記述　21
- B1－　自分自身についてマイナス記述　0
- B2＋　自分以外についてプラス記述　0
- B2－　自分以外についてマイナス記述　2

C.模擬保育全般（43記述）
- C1＋　自分自身についてプラス記述　29
- C1－　自分自身についてマイナス記述　1
- C2＋　自分以外についてプラス記述　11
- C2－　自分以外についてマイナス記述　2

この結果から，以下の考察を得ることができた。

１．全記述のうち最も多いC1＋（模擬保育全

般：自分自身についてプラス記述）における主なものは，「自分自身が活動を楽しめた」７，「自分の引き出しが増えた」５，「今回の実践を現場で使いたい」５などであった。自身が保育者となった時のことをある程度意識して活動に取り組んでいるように見て取れる。

2．次に多いA1＋（保育活動立案：自分自身についてプラス記述）における主なものは，「他者の視点や意見を知ることができた。参考になった」で20記述あり，全項目中最も多かった。１グループ内に幼児教育コースの学生とその他のコース・領域の学生がほぼ同数となるようなグループ編成を行ったことが，この記述につながったと考えられる。

3．３番目に多いB1＋（保育活動実践：自分自身についてプラス記述）における主なものは，「保育活動を体験できた」14，「他の活動とのつながりを知ることができた」４，「環境や教具への配慮を知ることができた」２などであった。体験できる機会を設けることが重要であるのは当然であるが，同時に今後の教育実習等に対して，学生が不安を抱いていることが垣間見られる

4．全記述のうち，「模擬保育」を自身のことに引きつけて振り返っている記述が76個（83％）である。またプラス記述が84個（91％）である。このことから，「保育内容の指導法（幼児音楽）」の授業内容として「模擬保育」の活動は欠かすことのできない重要なものであり，２年間のデータではあるが，学生たちは活動について概ね肯定的に捉えていると考えて良いのではないだろうか。

5．ただマイナス記述が８個あることも無視することはできない。主な記述としては，「保育活動案の書き方についての説明がわかりにくい（A1－）」１，「（模擬保育に）手遊びやわらべ歌を取り入れればよかった（B2－）」２，「グループ編成を固定ではなく途中で変えてもよかったのでは（C2－）」２などであった。これらのことについても，今後の課題としたい。

Ⅴ．おわりに

本研究において明らかにしたいこととして，筆者らは一貫して次の２点を挙げてきた。

> 1．「保育内容の指導法（幼児音楽）」の授業内容において育てることができる，音楽に関する資質・能力はどのようなものか。
> 2．「保育内容の指導法（幼児音楽）」の授業内容は，幼稚園教諭免許状・保育士資格を取得するための授業科目として適正なものであるのか。

1．については「Ⅲ．「保育内容の指導法（幼児音楽）」の授業内容について」において述べたとおり，長島（2009b）の「授業力評価スタンダード（音楽科）」による，“A.授業構想力”の下位能力群10項目全て，“B.授業展開力”の能力群である「言語的パフォーマンス」「子どもたちへの対応」「教具の活用」の下位能力群15項目，“C.授業評価力”の能力群２項目の合計27項目に関わるものであると筆者らは考えている。加えて，“C.授業評価力”における２項目の能力の育成については，今回の発表で取り上げた「模擬保育」の活動において特に育てる資質・能力であると考えられる。

2．については，今回，自由記述の検証結果を見る限りにおいては，再構築した授業内容については概ね適正と言え，特に「模擬保育」の活動に取り組むことは学生にとって意義深いものであったといえるのではないだろうか。

一方，本稿において研究対象とした「模擬保育」の活動の映像を振り返った際，重要な反省点に気付いた。

「模擬保育」であるから，保育者役の学生と子ども役の学生がいるわけであるが，子ども役の学生の反応が画一的になる場面が多く見られたのである。保育者の問いかけに対して，子ども役の学生たちが同じような応答をしたり，身体表現を行う場面においても「大人の発想」による極めて常識的な表現を行ったりする状況を

多く確認することができた。

授業力評価スタンダードにおける「３）子どもたちへの対応」の「④予想外の子どもの発言や音楽的表現への対応」や「⑤ハプニングへの対応」に該当する資質・能力を育成することを考えれば，このような状況は真の意味での「模擬保育」となりえていないといえるのではないだろうか。このことは，授業内容の構築というより，むしろ授業担当者である筆者らの指導内容に点検すべき点があると思われる。

今後は，とりわけこの点について重点的に研究を重ねていきたいと考えている。子どもの表現を導く支援を行う保育者に求められる資質・能力を育てるために，「幼児音楽」及び「保育内容の指導法」のそれぞれ15コマの授業内容をさらにブラッシュアップする，という課題について，得られた結果に安住することなく継続的に，そして慎重に取り組んでいきたい。

参考文献

文部科学省（2017）『幼稚園教育要領』

厚生労働省（2017）『保育所保育指針』

河合優子（2017）「幼稚園教育要領改訂のポイント」『初等教育資料』東洋館出版社，pp.２－13

岡田知也・桐山由香（2017）「子どもの表現を導く支援ができる保育者養成に関する実践的研究（２）」『香川大学教育実践総合研究』第34号，pp.69－82

岡田知也・桐山由香（2016）「子どもの表現を導く支援ができる保育者養成に関する実践的研究（１）」『香川大学教育実践総合研究』第32号，pp.75－87

岡田知也・桐山由香（2015）『子どもの表現を導く支援の在り方』全国大学音楽教育学会平成27年度第31回全国大会（下関大会）

長島真人（2009a）「音楽教師に期待される資質・能力の広がりと深まり―音楽科授業実践力評価スタンダードの構想―」『学校音楽教育研究 Vol.13』日本学校音楽教育実践学会，pp.200－201

長島真人（2009b）「音楽科教員養成の構想と実践（１）：音楽科授業力評価スタンダードの開発と活用」『鳴門教育大学授業実践研究：学部の授業改善をめざして Vol.８』鳴門教育大学，pp.３－10

金指初恵（2009）「弾き歌いに関する一考察―教育実習事前指導の観点から―」『埼玉学園大学紀要第９号（人間学部篇）』埼玉学園大学，p.206